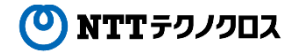


活用事例

牛を観察する人工知能 U-motion® (ユーモーション) 導入事例



事例の概要①

- 熊本県菊池市で黒毛和種の一貫経営(肥育・繁殖)を営む佐々畜産では2018年にU-motion®を導入。佐々畜産の代表である佐々隆文氏はご自身の農場での仕事に加え、肥育専門の獣医師として地域の他の農場の指導にもあたっている。
- U-motion®を導入したきっかけは、起立困難による牛の死亡事故を防ぐため。佐々畜産では、監視カメラで起立困難牛を発見し救出するという方法で3年以上死亡事故ゼロを実現していたが、カメラによる監視では夜間・早朝も交代でカメラを見る必要があるため、その身体的負担は大きかった。
- U-motion®の機能のひとつ、「起立困難アラート」は起立困難状態にある牛を人工知能が自動で検知し、牛が自力で立ち上がるか農家が牛を助け起こしてアラートを解除するまで、農家のにEメールで通知する。佐々畜産ではU-motion®の導入後、夜間や早朝に及ぶカメラ監視を廃止した。
- U-motion®を導入し、きっかけとなった「起立困難アラート」のほかにも疾病の兆候を人工知能が自動検知する「疾病アラート」や、作業履歴を記録し過去の記録も簡単に振り返ることができる「台帳」機能など多くの機能を活用し、肥育成績の向上につながった。

事例の概要②

- 静岡県富士宮市で酪農経営を行う朝霧メイプルファームでは2017年にU-motion®を導入。
- 同農場では従来よりデータによる牛の個体管理に取り組んできたが、より多角的かつ緻密なデータ管理を行うために、牛の行動データ(動態・起立・横臥・静止・起立反芻・横臥反芻)を自動記録できるU-motion®の導入を決めた。U-motion®で採用しているセンサーには加速度計のみならず気圧計が搭載されているため、牛が立っているのか横たわっているのかという姿勢まで把握できることも大きなポイントとなった。
- 従業員は作業開始時にU-motion®で「発情アラート」や「疾病アラート」の有無を確認し、アラートの出ている牛を優先的に点検することで発情や疾病の見逃し防止を徹底。「疾病アラート」では「採食時間低下」や「横臥時間増加」のように平常時と比べて牛のどの行動に異変が起きているのかまでが表示されるため、疾病の早期発見に加え原因究明までの時間短縮も実現できた。
- 牧場の規模拡大の過程にある同牧場では、これまでに就農経験のなかった若年層の従業員も多く活躍しており、従業員教育や従業員同士情報共有にもU-motion®で得られたデータを活用している。



U
motion

デザミス株式会社 YouTubeチャンネルでは
動画でも事例紹介を行っています！
下記URLより、ぜひご覧ください。

https://www.youtube.com/channel/UCjVapN_1h5aCaBf6TmD8Gcg/videos

